



令和8年1月号

発行人:津谷歯科医院

院長:津谷良

住所:岡山市中区海吉1807-14

紙面に関するお問い合わせは下記まで

電話: 0120-779-418

配信代行:訪問歯科診療を広める会

皆さん、こんにちは！いかがお過ごしですか？

津谷歯科医院、院長の津谷良です。

開口障害は20歳代と50歳代に発症のピークが見られますが、高齢者でも身体状態や特有の疾患を背景にして、開口の問題が発生しやすくなります。特に嚥下機能が低下している高齢者ほど開口力や開口度が小さい傾向にあり、開口度の計測によって誤嚥リスクや口腔機能低下の有無を把握することができます。あらかじめ要介護者の開口度を評価しておくことで「食事形態」「口腔内清掃」「服薬支援」等の日常生活で必要なケアの難易度や方法を個別化でき、「誤嚥予防」「流動食対応」「摂食・嚥下リハビリ強化」等への具体的な支援目標が立てやすくなるというメリットがあります。今月は、「高齢者における開口の問題とケアの目標」についてご紹介します。

1. 高齢者の開口の問題

高齢者の開口障害は、加齢による筋力低下が大きな要因ですが、脳血管障害、中枢神経疾患（パーキンソン病等）や認知症、口腔内潰瘍等の高齢者特有の疾患も原因となります。開口度が低下すると、介護の現場では食事介助や口腔ケアの際に大きな支障となることがあります。栄養が十分に摂取できなければ低栄養となり要介護度の悪化や感染症のリスクが高くなります。また口腔内清掃が十分に行えないとい、虫歯や歯周病が進行していくれば歯を失うことになります。咀嚼機能の低下は嚥下機能にも影響し、誤嚥性肺炎のリスクを高めるため高齢者の健康維持にとって重大な問題となります。また経管栄養の方は口唇を閉じる筋力が低下するため常に口を開いた状態になることもあります。常に口を開いた状態では口腔乾燥や口腔内細菌が増加して感染症リスクが上がります。頭部の姿勢異常（頭部後屈等）も常時開口を助長しするので注意が必要です。

2. 優先すべきケアの目標

(1) 口腔機能の維持・回復

開口訓練で口腔周囲の筋緊張を和らげて、開口量を改善します。これによって入れ歯の使用や咀嚼機能の回復が期待できます。さらに口の体操や摂食・嚥下訓練を取り入れ、筋力維持や嚥下機能の向上を目指します。

(2) 安全な食事支援

開口度が低いと嚥下時に口唇閉鎖不全となり誤嚥のリスクが上がるため、食事の時には口をしっかりと閉じる支援や正しい姿勢の保持が必要です。とろみ付け、軟食等、食形態の調整や飲み込みペースの管理も優先されます。

(3) 口腔ケアの工夫

開口困難に対し、安全かつ痛みのない口腔ケアの方法を取り入れることが重要なので、できるだけ歯科専門職のアドバイスを受けるようにしてください。

高齢者の開口問題とそれによって引き起こされる身体状態やQOLの低下に対しては、言語聴覚士・介護職・歯科医師等が目標を共有し連携して対応することが重要です。

◆ 高齢者の開口問題は多職種が連携し口腔リハと口腔ケアで対応しましょう ◆

口腔ケア新聞の発行にあたって

ここ数年、外来患者さんやそのご家族から訪問診療のお問い合わせやご依頼を受けるケースがとても増えてきました。小さなご病気されてしまったことがキッカケで、寝たきりになってしまわれたりして、「いつもお元気でいいですね」と話をしていたのに…。そんなことが続いたので、これは本格的に訪問診療に取り組まなければいけないかなって、強く思いました。

そこで取り組みの一環として、要介護者の歯と口に関する情報を地域の介護に携わっている方にお届けしようと考へ、口腔ケア新聞を毎月1回発行しています。

津谷歯科医院

診療時間 9:00~12:30/14:00~18:30
(土曜日は16:30まで)

診療科目 歯科 小児歯科

休診日 木曜・日曜・祝祭日

院長 津谷 良

岡山市中区海吉1807-14

0120-779-418 FAX 0120-779-413

